

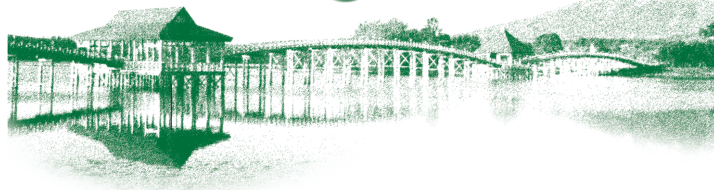
ケガないように交通安全を

春の全国交通安全運動に伴い、4月8日（火）、早朝から街頭啓発が行われ、約300人が街頭に立ち、登校する児童に交通安全を呼び掛けました。

鶴田小学校（森山和康校長）の校門前では、ツル多はげます会（須郷貞次郎会長）の会員が頭に「交通安全宣言のまち」と書かれた吸盤付きののぼり旗を付け、交通安全を呼び掛けました。会員の皆さんは登校する児童に「頭を触ってごらん。ケガないよ（毛が無いよ）」と話しかけ、ユーモアあふれるはげます会のあいさつに児童たちは「おもしろい」、「気持ちが良かった」と喜んでいました。同会の成田晃生さんは「子どもたちの喜ぶ顔が見られたのでやりがいがあった」と話していました。



△「触ってごらん。ケガないよ」と話すはげます会の皆さん



あなたの地区の楽しい催しや出来事などを役場総務課まちづくり班までどしどしお知らせください。（22-2111 内線264）

交通事故に遭わないために

4月10日（木）～14日（月）まで、管内の小中学校で交通安全の意識の向上と交通ルールの学習を目的とした交通安全教室が行われました。

胡桃館小学校（原真紀校長）では、3～6学年児童を対象に自転車教室が開かれ、児童たちは警察官から「道路を渡る時は左右を確認して」「後方確認もしっかりやってね」などと指導を受けながら、自転車の正しい乗り方を学んでいました。

また、今年3月15日に交通事故ゼロ5,500日を達成した梅沢地区の梅沢小学校（十川郁夫校長）では、6年の鈴木菜摘さんが「自分の安全、小さい子どもの安全を考えて登校できるようにします」とあいさつし、交通安全教室に臨んでいました。



△警察官が児童に「左右を確認しましょう」と指導

決意を固め、喜びをかみしめる

4月17日（木）、鶴田町柔道少年団と鶴田町ジュニアレーシングの選手が中野町長を訪れ、大会出場と成績を報告しました。

5月5日（月）に講道館（東京都）で開催された「第34回全国少年柔道大会」に出場した柔道少年団は、7月に開催される「県少年学年別柔道選手権東北ブロック大会」への出場を報告。同少年団の蛭名快晟選手は「自分の仕事をしっかりして勝ちにいきたい」と決意を述べました。また、3月に岩手県で開催された「第8回全国小学生アルペンスキー大会」に出場したジュニアレーシングの選手は大会の成績を報告。同チームの三浦百望選手は「全国3位に入賞したので嬉しかった」と喜びを語っていました。



△中野町長からねぎらいの言葉をかけられる選手の皆さん



△「放水始め」の号令により、消防用水の確保を確認

火災ゼロの町を目指して

4月14日（月）～20日（日）までの春の火災予防運動週間に先がけ、13日（日）、鶴田町消防団（下山正彦団長）では車両8台による火災予防周知のための広報パレードと各消防団への査察点検を実施しました。

査察者の中野町長が「火災ゼロを目指してみんなで呼びかけをしましょう」とあいさつをした後、各分団を巡回して査察点検が行われました。アポロキャップを被り、活動服に身を包んだ分団員たちは各地区の屯所付近に整列して待機。緊張感が張り詰める中で査察者から服装規律状況や機械器具の整備状況などの点検を受けた結果、すべての分団とも「異常なし」で終わることができました。

地球に優しく、大切に

当町では、平成12年からアースデイ（地球のために行動する日）に伴い、当町の国際交流員がごみとなる物をリサイクルすることで、環境を守ることの大切さを知ってもらおうと、「アースデイ鶴田」を開催し、さまざまな取り組みを行っています。

4月19日（土）、15回目の開催となった当イベントには、町内の小学生約30人が参加。町ジュニアリーダーの協力のもと、国際交流員のエイミー・タッペンデンさんとリサアン・カワチさんが中心となり、新聞紙を使った地球のオブジェ作りやごみの投げ入れゲームなどが行われました。

エイミーさんは「イベントを通して地球を優しく大切に扱うことを意識してほしい」と話していました。



△風船に新聞紙を貼り付け、地球のオブジェを制作